

第2回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会

1. はじめに

昨年に続いて、第2回日本気象学会ジュニアセッション（以下、ジュニアセッション2016）が、2016年度春季大会の4日目（5月21日（土））にポスターセッションにて開催された。ジュニア世代に発表の場を提供する、という社会貢献を目的とし、大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待している（教育と普及委員会・講演企画委員会 2015b）。

前年の経験を元に昨年秋から準備して、全国都道府県の教育委員会や高校等への通知、学会ホームページへの掲載などを通して参加を呼びかけた。その結果、北海道、茨城県、東京都、神奈川県、新潟県、愛知県、兵庫県の中学および高校、計11校から16件の応募があり、全体としては第1回と同規模（教育と普及委員会・講演企画委員会 2015a）の参加を得ることができた。以下に、当日の様子、アンケート結果、今後への反省点などについて報告する。

2. 当日の開催状況

当日来場した生徒は36名、引率または同行者18名、視察者2名、総勢56名であった（第1図）。昨年より生徒数が減少したが、定期試験中または試験直前の学校が複数あったことが関係しているかもしれない。参

加校は昨年に続いてSSH（Super Science High-school）指定校が大部分を占めていたが、中学校からの参加も1校あった。

当日開始前に、最後の発表練習をしているグループがあるなど、参加する生徒達の熱心な様子が昨年に続いて印象的だった。今回はジュニアセッション2016が大会最終日で、聴講者が十分に集まるか懸念されたが、一般会員のポスターセッションよりも1時間早く10時30分から開始すると着実に集まり始め、12時30分までの2時間にわたり、熱心な発表と質疑・コメントが続いた。ジュニアセッション2016を目当てに来場したと思われる聴講者も多く、後半は各部屋とも移動がままならないほどの盛況ぶりだった。多くの一般会員がジュニアセッション2016のポスターの前で足を止め、生徒たちが補助資料を見せながら説明し、メモを取りながらコメントを聞いている様子が印象的だった（第2図）。ポスター会場が3部屋に分かれており、各部屋でジュニアセッション2016のポスター発表が4～6件、一般会員のポスター発表が2件とこじんまりしていたが、ジュニアセッションの若さあふれる発表と一般会員の熱心な質疑・コメントが全体の雰囲気を盛り上げているように感じられた。

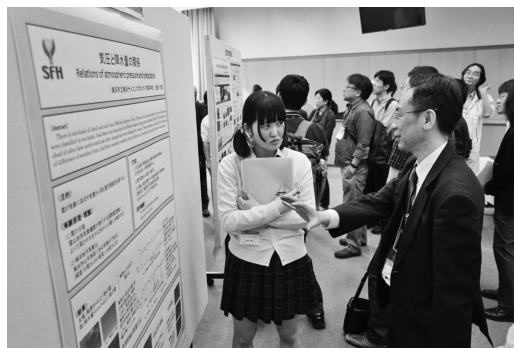
ポスター発表の内容はいずれも興味深いテーマでよくまとめられており、中には学術的にもオリジナルな



第1図 発表の前に、発表者全員の全体写真。



a



b

第2図 ab ポスター会場での発表の様子。



第3図 発表認定証交付の様子。

内容に迫るものがあり、非常にレベルの高い発表であった。第1回に続いて参加した学校では、継続的内容・発展的内容の発表もあり、継続して調査を行う利点を感じられた。一方、新たな参加校、新たなテーマでの発表も調査のポイントと結果がきちんと整理され、完成度の高い発表になっていた。学校で日頃からの調べ学習の指導の成果が出ているものと考えられる。開催趣旨に鑑みて発表の優劣評価や授賞は行わず、前回と同じく共同研究者を含む発表者全員に対して「発表認定証」を交付した(第3図)。これを励みに気象に親しんでもらうことを期待したい。

ジュニアセッション2016への参加に伴うイベントとして、今回は同日午後からの公開気象講演会への参加を募った。定期試験のために参加を見合わせたケースもあったが、会場前方に席を確保し、約20名が熱心に聴講した。

3. アンケート調査結果

ジュニアセッション2016に来場した生徒及び引率・同行者に対し、前回に続いてアンケート調査を行っ

た。引率・同行者からはこのような機会の活用希望が高く、発表した生徒の大部分も「楽しかった」「またやりたい」との回答を得た。全体として好評だったといえ、「大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心を高める」という目的がよく達成されていることが窺われる。セッションで質問やコメントをたくさんもらったという回答が多く、「専門家からのアドバイスや他校の発表に刺激を受けた」という感想も多数寄せられた。ひとえに、一般会員みなさんのご協力のおかげである。

参加するに当たって気象学会ホームページを通じて開催を知ったケースが多く、募集期間や開催時期も概ね妥当だったようだ。ジュニアセッション用の予稿集や発表認定証も好評で、開催形式も全般的に好感を持ってもらっていると思われる。生徒は春秋の2回の開催を希望する回答が多かったが、指導者は春1回の希望が多かった。調査・研究期間が1年からそれ以上とする回答が半数以上だったことを考慮すると、当面は年1回で春の開催が妥当であると考えられる。

参加の制約事項としては日程と予算が拮抗していたが、日程を理由として挙げた指導者がやや多かった。一方で、旅費の補助を希望する意見もあった。高校に関係する組織(全国高等学校文化連盟など)との共催や、関連施設の見学実施などによって参加しやすくなるとの意見が寄せられた。また、「指導者を紹介してほしい」という要望が、昨年が続いて挙げられた。これらについては、今後検討していきたい。

ジュニアセッションでエクスカージョン的に企画しているイベントは、前回は施設見学、今回が公開講演会の聴講で、どちらも好評であったが、アンケートでは参加校間の懇談会を希望する意見も複数挙がってい

る。ジュニアセッションがより魅力的になるよう、今後も工夫を重ねていくことが望まれる。

4. 今後に向けて

4.1 実行組織について

ジュニアセッションは春季大会中に開催していることから、講演企画委員会と大会実行委員会の双方と連携しながら運営している。特に大会実行委員会とは会場の設営等も含めて綿密な連携が必要である。また、参加者の募集等に関して日本気象予報士会の協力も大きな推進力となっている。来年度も春季大会における第3回ジュニアセッションの開催を行う予定であり、三者には引き続きご協力をお願いしたい。

4.2 参加募集や事前審査について

参加募集の方法や時期については、概ね妥当だったと考えられる。今回参加した11校のうち、新規の参加校が4校であったが、今後も参加校が広がるよう、より効果的な募集方法についても、引き続き検討していきたい。

事前審査は応募者の資格と発表内容のジャンル（気象・気候や大気科学の観測・研究に関すること）から審査を行っている。今回は前年並みの応募数で、ポスター会場に余裕があり、全件が合格となった。今後、応募件数が増えた場合の対処方法について検討しておく必要がある。参考までに、2006年から高校生セッションを開催している日本地球惑星科学連合では、申込多数の場合、早期に締め切る場合があるとしている。

4.3 予稿集や発表認定証について

ジュニアセッションの予稿集は、第1回より一般会員の大会予稿集とは別に、カラー印刷で作成し、ジュニアセッション参加者及び大会参加者に配布している。また、発表認定証は発表者一人一人の手元に残るよう、発表者別に発表題目を添えて発行している。これらはジュニアセッションの開催費用の大きな部分を

占めるが、アンケートでも非常に評価が高く（特に指導者）、学会としても実施記録となるほか、次回開催時の案内としても活用できるため、今後も続けていきたいと考えている。

4.4 控え室について

ジュニアセッション参加者の行動は学校単位での団体行動が基本となる。ジュニアセッション2016では大会実行委員会のご厚意により、大会受付スペースの一部に机を並べ、ジュニアセッションの控え室として使用させていただいた。そこで、当日の説明会や認定証交付式を行うことができ、荷物置き場としても使用させてもらった。このようなスペースの確保はジュニアセッション特有のニーズであり、今後ご協力をお願いしたい。

5. おわりに

ジュニアセッション2016も初回に続いて盛況且つ成功裡に終了することができた。これも、大会実行委員会、日本気象予報士会、講演企画委員会、日本気象学会会員皆様のご協力あつてのことであり、ここに改めて謝意を表したい。今後も継続的に開催して、ジュニア世代に気象学の裾野を広げられるよう、次回に向けた準備を進める所存である。

なお、ジュニアセッション2016の開催案内、発表予稿、開催当日の様子（スナップ写真）、アンケート調査の集計結果などを気象学会ホームページに掲載したので、参照されたい。（<http://www.metsoc.jp/?p=5021>詳細）

参考文献

- 教育と普及委員会・講演企画委員会，2015a：第1回日本気象学会ジュニアセッション開催報告。天気，62，797-799。
 教育と普及委員会・講演企画委員会，2015b：第2回日本気象学会ジュニアセッション開催のお知らせ～発表者を募集中です～。天気，62，1005。